

ハイチのヴードゥーから考える 脱植民地化 ——声とリズムの伝承

*Thinking about Decolonization through Haitian
Vodou—The Transmission of Voice and Rhythm*

2026年1月16日(金) 17:00-18:30

早稲田大学8号館3階308教室

使用言語: 英語(逐次和訳付)

Friday, January 17, 2026, 5:00 PM - 6:30 PM

Waseda University Building 8, 3th Floor, Room 308

Language: English (with consecutive Japanese translation)

講演 Lecture 17:00-18:00

フランク・デジレ(ミュージシャン)

Franck Désiré (Musician)

ハイチ、ポルトー・プランス出身。19歳でアメリカに移住し、ハイチ出身の子どもがアメリカの教育制度に溶け込むための地域支援活動を行う。音楽グループASAKIVLEを結成し、世界各地でハイチのルーツ・ミュージックを演奏し、ヴードゥーの伝統を継承している。

EXPO OSAKA 2025ハイチ・ナショナルデー出演。日本でワークショップやライブを展開中。

司会・通訳 渡邊未帆 (大阪音楽大学 准教授)

Miho Watanabe (Associate Professor; Osaka College of Music)

議論と質疑応答 : Discussion 18:00—18:30

1804年、ハイチは世界初の黒人共和国としてフランスから独立しました。その革命は、アフリカに起源を持つ精霊信仰ヴードゥーのセレモニーである「カイマン森の儀式」を口火に起こったと伝えられています。20世紀初頭にハイチを占領したアメリカによってもヴードゥーは禁止され、ゾンビ映画などにおいても様々な偏見や誤解とともに語られてきました。

しかしながら、ヴードゥーの儀式の中のうたやリズムには先祖たちの知恵(数学、農業、社会、生活など)とメッセージが伝承されているのです。今こそハイチのヴードゥーの教えや生き方に耳を傾けて、世界の脱植民地化について考えてみませんか。

主催 : 早稲田大学総合研究機構 現代フランス研究所

問い合わせ : 谷 昌親 (masachika_1622@waseda.jp)